

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【春野小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 文章の読み取りに課題がある。 過去の学年の学習内容が定着していない児童への支援が必要である。  <指導上の課題> 授業において自然に差があり、学習内容の定着に課題がある。学習者用端末の日常的、主体的な活用の頻度に課題がある。	個別最適で効率的な学びをする【学力・学習状況調査(国・市 各年1回)や自校調査(单元終了毎 とりまとめは12月)】 文章を読む・書く・体験の充実を図る【よい授業アート 12月】 ICT活用による、過去の学習内容の定着【ICTタイム実施(木曜朝)】 端末使用のルールづくり・有効活用【ICTタイム実施(木曜朝)】 繰り返しの学習の積み重ねを意識して安定した学力の定着を目指す。【授業後・単元後の振り返り】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 調査から「書くこと」に課題が見られた。 <指導上の課題> 自分の考えを書くことや相手の考えを読み取る活動が十分でない。何をすべきか、どこまで自指すかを児童が理解して進められるように示す必要がある。	様々な教科において、書く活動・文章を読み取る活動を意識して取り入れる。【導入・振り返りでの実施】 自分の課題を設定・選択する力をつける【導入・モデル学習】

全国学力・学習状況調査  
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	児童生徒の 学力の向上
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	記憶に基づく漢字の使用は概ねできていた一方で、「あつい」「熱い」「厚い」などから文脈に応じて選択する問題には難しさが見られた。これは、単なる暗記ではなく、適切な語を選んで書く力が問われる場面であり、言葉を使って表現する経験の量が影響していると考えられる。 算数では、台形の識別や目盛りから分数を読み取る問題に難しさが見られた。既知の形や情報に頼って答える傾向が強く、問題の構造に立ち返って考える姿勢が十分に育っていないことがうかがえる。	調査の振り返り(4月)
思考・判断・表現	国語では多くの設問で全国平均を下回り、特に文章全体の構成を把握して要旨を捉える力や、目的に応じて文章と図表を関連付けながら必要な情報を見つけ出す力に課題が見られた。算数では、文章や図表を読み取り、それをもとに式や言葉で説明する2つの問題において、特に正答率が低かった。理科でも、問題文を正確に読み取り、題意を理解して記述する力が求められる2つの問題で課題が見られた。これらの結果から、すべての教科に共通して「文章の読解力」と「記述力」の向上が重要な課題であることが明らかとなった。	調査結果分析(7~8月)

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	文章を読む・書く・体験の充実を図ることについて、図書室のレイアウトの工夫により、おすすめの本を手に取りやすくした。学習のまとめを児童から出た言葉を基に文章化する取り組みを進めている。 ICTタイムの計画的実施。タイミングの技能向上がみられ、ドリルワークやスタンプの使用にも親しみんでいるが、端末使用のルールづくりは引き続き徹底していく。	変更なし
思考・判断・表現	B	授業において、自分だけで文章化する前の段階として、学習内容のまとめについて、児童からでた言葉を対話を通して文章化している。読み取りについては、文章があらわす内容が何なのか、対応を明らかにしつつ学習を進めている。 自分たちの疑問を対話を通して明確にし、提示された複数の課題の中から、自分の取り組みを選択する活動を行っている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)